

和歌山での感想

辛 巧

教育学部 交換留学生 中国

今年の四月、私は交換留学生として日本に来て人生の新しい1章を始めた。大学の専門は日本語なのに、まじめに勉強しなかったのも、和歌山県はもとより日本の事情をあまり知らなかった。過ぎたことはありありと目に浮かぶ。初めて日本に来た日の情景が昨日のここのようだ。私に強い印象を残した。

間違いが起こり空港で友達と逸れた。周りの見知らぬ人を見て、不案内な言葉を聞いて不安な気持ちがいっぱいだった。やっとのことで下手な日本語で空港バスに乗った。しかし、緊張した気持ちは消えていなかった。先生はまだ待っているのか、あるいはわたしがバスを降りたところで待っているのかどうかは全然わからなかった。もし先生を見つけなかったら、私はどうすればいいだろうか。空が暗くなってきた。外を見て見渡す限り緑色ばかりだ。うっそうたる森林は長々と続いている。さすがは日本だ、森林の面積は広いと思う。日本といえはたくさんの方が桜を思いつく。その時はちょうど桜の季節だ。実は本当に桜を見たことがなくて、特に日本ではどのように形容するのか。桜の木は高くて大きい。満開の桜がいっぱいだ。鮮やかに咲き乱れた桜に私の心も和らいだ。

幸いなことに最後は順調に着いた。正式に和歌山県で独りの生活をはじめた。印象が最も深い部分あるいは最も好きなものは何だろうか。私の答えは風景だ。一番好きなことは和歌山県の景色を楽しんでいるということだ。澄んだ空気、さらさらの風、ぴかぴかのお日様、きれいな水、藍色の大空、青い山、深い森、波立つ海、これらに深く陶醉している。夜は一人で散歩しても周りの建物、車を見てその雰囲気はいいと思う。学校の食堂でご飯を食べるたびに、窓に向かって座って、外の景色を眺めた時気持ちはよくなる。非常に美しい。ある日、アルバイトした後帰る途中で、思わず頭をあげて、私の心は喜びにあふれた。ぴかぴかのお日様と藍色の大空の下、古めかしい和歌山城は青緑色の木の中で見え隠れしている。その場面は忘れがたい。きれいな絵のようで感動させられた。その時は美しさで泣きたいと思った。

和歌山県に来て以来、多くの人と出会った。交際するうちにたくさんのが分かった。遠く異国に住んで、全部のことを自分で背負う。私はここで以前体験しなかったことを体験している。「貴重な経験のひとつ」になってくれるはずだ。

